

中野区の木の「しいの木」そして、図書館を表す「biblio」
それらをあわせてタイトルを「シイビブリア」としました

中野区立図書館報

シイビブリア

VOL.
48

大正時代ことはじめ

鬼とおまじない

中野区立鷺宮図書館

鷺宮で路傍の石仏をめぐる



中野区立図書館報
シイビブリア

中野区立図書館報
シイビブリア vol.48

令和3年3月31日発行(隔月1回末日発行)
発行人 廣瀬幸子

〒164-0001 東京都中野区中野二丁目9番7号
発行 中野区立中央図書館シイビブリア編集部

ISSN 2187-9893 seebiblia



NAKANO CITY CERTIFIED TOURISM RESOURCES



中野区認定観光資源
2014

中野区立図書館

<https://library.city.tokyo-nakano.lg.jp/>

指定管理者

ヴィアックス・紀伊國屋書店 共同事業体

seebiblia



★はじめに…

1912（大正元）年7月30日の深夜0時43分、明治天皇崩御に伴い、新たな元号「大正」が始まった。

日本が近代国家としての立場を獲得し、列強各国と肩を並べるに至った怒濤の明治時代。その近代化の波を受け継ぐ大正時代は、現代社会の礎を築く上で最も重要な時代と言えるよう。

新たな情報伝達の方法としてラジオが登場し、今まで貴族中心で行われてきた選挙制度に民間人も関わる事ができるようになった。また、民衆の力が強まることで、これまでの労働の在り方も見直されることになり、今の労働組合の基盤が出来上がったのも大正時代だ。

さらに、職業婦人と呼ばれる女性たちが社会に進出し、バスガイドやエレベーターガールなど、女性特有の職業が生ま

れたのもこの時代の特徴の一つだ。

他の時代と比較すると僅か15年しかなかった大正時代には、現代に生きる私たちの生活環境に通ずる事柄があふれている。また、昨今ブームの『鬼滅の刃』（吾峠呼世晴／著、集英社、ジャンプ・コミックス）では、作品の時代背景としても描かれている。方々で注目を集めるこの時代を振り返るにあたり、図書館資料を通して、様々な視点からこの時代を検証していこうと思う。



SHITTERU? SHIRANAI?

大正時代とはじめ

TAISHO ERA BEGINNING

政治から学ぶ大正時代

元号「大正」は、中国儒教の経典『易经』に由来し、「民衆の言葉を受け入れ、正しいまづりごとが行われる」という願いが込められている。

元号についての詳細は、以前『シイビブリア vol. 37』（2019年5月31日発行）でも特集しているので、ぜひそちらもお手に取っていただきたい。

1904（明治37）年に起きた日露戦争で勝利した日本は、朝鮮半島、樺太の南半分の利権を手に入れることに成功した。しかし、ロシア側から賠償金を得ることはできず、やむなく国民へ重税を強いることになり、それは大正時代まで続

いた。当時の政権は、伊藤博文の後継である西園寺公望と陸軍に所属していた桂太郎が交互に総理大臣を務めており「桂園時代」とも呼ばれていた。この二人による軍閥寄りかつ独占的な政権に、民衆は不満を募らせ、憲政擁護運動を引き起こす。そして1913（大正2）年2月10日、怒りを爆発させた国民が議院を包囲するまでに至り、その数は優に数万人を超えたとされている。この騒動により、翌2月11日、桂内閣は総辞職に追い込まれることとなる。この出来事は後に「大正政変」と呼ばれ、民衆の力が政権を覆したという歴史的に重要な最初の事例となった。これを契機に政治の根幹が見直され、現代にもつながる政党政治の基礎が生まれる。さらに、民主主義の発展による自由主義的な風潮が萌芽するきっかけともなった。



大正時代初期は、大衆文化がおおいに花開いた時期でもある。ラジオ放送がはじまり、週刊誌の創刊が全盛期を迎え、1915（大正4）年には日本初の地下鉄道も開通した。また、大正デモクラシーの動きが活性化し、民衆一人一人が自己の確立を意識し始めた転機でもあった。では、それらが発展した背景を見ていこう。

▼ラジオ放送

海外ではすでに選挙の結果発表やプロパガンダ的な目的で活用されていたが、日本で正式に公共機関を通してスタートしたのは1925（大正14）年3月22日のことだ。しかし非公式な放送は、1923（大正12）年9月1日、関東大震災時点ですでにされていた。だが、その内容はデマばかりで情報と呼べるものは少なく、それに翻弄されて混乱が起きることもしばしばあったようだ。情報の取捨選択が求められる点は、現代社会と同じだろう。

▼食生活

1914（大正3）年、第一次世界大戦を皮切りに、日本は泥沼の戦争期へと突入する。当時、国内で生産される米の大半が軍用米に回されたため、国民へ充分な配分が行き届かなくなってしまった。これに対し国民は、米の配分をできるだけ国内に回すよう嘆願したが、これを当

時の政権は撥ねつけた。そのため、国民は米の不当な移出を阻止すべく実力行使に動き出すほかなくなってしまう。結果、いわゆる米騒動と呼ばれる暴動が各地で多発するようになる。

現代では、朝食にパンを食べることが定着しているが、実はこの習慣が根付いた背景には、大正時代のシベリア出兵、ひいては第一次世界大戦が大きく関わっている。軍用米として不足する米に代わり、台頭したのが小麦だった。稲作より小麦の栽培が簡単だったことも理由の一つだろう。

大正時代の創業ラッシュ!!

戦争で外国製品の輸入が途絶えたことで、日本国内では重化学工業の需要が急速に高まった。それに伴い、日本各地で創業ブームが起こり、現代にも受け継がれる数多の技術が誕生した。

マヨネーズの金字塔"キユーピー株式会社"や、長く国民に愛されているお菓子・グリコの"江崎グリコ株式会社"は有名だろう。

さらに、現代の電機メーカーを代表する"シャープ株式会社"やカメラブランドの"株式会社ニコン"、数多くの映画やドラマを発信する"日活株式会社"も大正時代に生まれた。

▼交通

日本で初めて鉄道が走ったのは、1872（明治5）年。その後、鉄道の国有化に伴い、大正時代を代表する国産蒸気機関車"8620形（通称・ハチロク）"が誕生した。そして、1914（大正3）年12月14日に竣工された東京駅の開業を経て、帝都の玄関口は華々

しい発展を遂げていく。その後、「日本の地下鉄の父」と呼ばれる早川徳次が、1920（大正9）年に東京地下鉄道株式会社を設立し、上野〜浅草間の開通に尽力した。

▼抒情画

今でいうイラストレーションの先駆けであり、「少女」をモチーフに描かれる絵画。明治時代に創刊された少女雑誌を発端とし、女性の自由や個性を重視する流れが生まれたことで、少女文化は近代的な成長を遂げる。出版業界も多分にもれずその波を受け、新たに女性向けの刊行物が多数出版された。その表紙を飾ったのが抒情画だ。多感な時期を生きる少女の精神面を描く芸術としての側面と、ファッション誌的な表現を併せもつ抒情画は、当時の少女たちを虜にした。主な画家に、大正ロマンを代表する絵師・竹久夢二と高島華宵が挙げられる。

▼百貨店（デパート）

「今日は帝劇、明日は三越」のキャッチフレーズをきいたことはあるだろうか？

1904（明治37）年に、三越が「デパートメントストア宣言」をしたことで、日本初のデパートが誕生した。百貨店はいずれも呉服屋から転業しており、1919（大正8）年には白木屋、松屋高島屋が、1924（大正13）年には伊勢丹が転身した。ファッション、メイクはもちろん、時代のニーズに即した日用品の販売や、レストランの設置など、数

基本理念として根付いていた。しかし、大正期を境に自立する女性が増え始めたのも事実だ。

代表的なのは、1911（明治44）年に発刊された雑誌『青鞥』の「元始、女性は大太陽であった」の一文でも知られる平塚らいてうだ。本名・平塚明は、文芸と婦人運動に多大な影響を与え、これまでの女性の在り方に風穴を開けた人物でもあった。当初、『青鞥』は婦人向けの文芸誌として刊行されたが、徐々に婦人問題や女性の言論と思想の自由を主張する内容へと移行し、さらにその活動は婦人解放運動にまで発展する。かくして「新しい女」という言葉が生まれ、当時の流行語にもなったそうだ。

▼職業婦人の台頭

元祖キャリアウーマンと呼べる職業婦人は、大正時代におおいに活躍した。その背景には、企業側が安価で雇える労働力を求めたことや、戦後の不況により女性が働かざるを得ない状況であったことが挙げられるが、女性の自立のきっかけとなったことは確かだろう。

職業婦人とは、『日本労働年鑑』（大正10年刊行）において「多少の事務又は技術的能力を有する、被傭者および営業者として独特の地位を有する女子」と定義されている。いわゆるホワイトカラーの仕事にあたる、事務員や店員、医療などの専門職、女給などが該当し、肉体労働系の職業は含まれなかったのが特徴だ。男性と比較すると低賃金で簡単な仕事し



▲明治末期の浅草六区

休日には多くの民衆が集い、東京の観光名所としても名を馳せた。

・キネマ（映画）

当時は『活動写真』と呼ばれ、初めて日本で上映されたのは1896（明治29）年だと言われている。東京・浅草六区を中心に栄え、当初は、動く写真に字幕と活動弁士による場面の状況説明が加えられた無声映画が主流だった。

・オペラ

1912（大正元）年、イタリア人の演劇家ロシーが帝国劇場に招かれた。彼の門下生が中心となり「浅草オペラ」が形成され、『アイーダ』などの名作が上演された。田谷力三をはじめ、高木徳子など多くのスターが誕生し、ペラゴロ（※オペラ+ゴロツキの略）と呼ばれる熱狂的なファンも生まれた。



大正時代は、女性の躍進が著しい時代だ。これまでの女性像は、男性の一步後ろに控える…いわゆる良妻賢母が主流であり、第二次世界大戦以降も女性教育の

か任せられていなかったようだが、当時の雑誌や新聞で特集されるなど、職業婦人の存在は新時代の象徴として認知されていた。

▼モガ&モボ

大正末期に登場したモダン・ガール（通称…モガ）とモダン・ボーイ（通称…モボ）の存在は、大正ロマンを語る上で欠かせない。

断髪に洋服を着こなし、キリッと描いた眉につけぼくろ、爪に施されたマニキュア、時代の最先端を行くモダン・ガール。山高帽子にロイド眼鏡、セーラーパンツにステッキを翻すモダン・ボーイを連れ、銀座を颯爽と歩く彼女たちは、まさに「新しい女」の代表だった。

しかし、当時はまだ女性に対する良妻賢母の風潮が根強く残っていたため、彼女たちに向けられる視線は決して歓迎するものばかりではなかったことだろう。今でこそ女性が活躍する時代になっているが、当時の日本では憧れと同時に嘲笑の対象であったことも否めない。



大正時代を振り返ると、現代との共通点がいくつもあることが分かる。しかし、当時と比較するとはるかに多くの選択肢が私たちには与えられている。

図書館は、現代の私たちと過去をつなぐ知識の社交場でもある。今特集で少しでもそれを感じていただけたら幸いです。

潜入 !! 突撃・百貨店 !!



▶ 白木屋呉服店 陳列棚

当時のデパートは土足厳禁で、スリッパに履き替えるか靴にカバーをかけて入店するのが常識だった。しかし1923（大正12）年、白木屋神戸店が土足による入店を実施したことで、大衆がデパートへ足を運びやすくなり、ショーウィンドウを自由に眺めながら気軽に買い物気分を味わえる"ウィンドーショッピング"が盛んに行われた。これを契機に、デパートの大衆化はよりいっそう進んだとされている。

多くの人々で賑わう「東京の新名所」として話題をさらった。行けば欲しいものは何でも揃う百貨店は、庶民にとってあこがれの場所でもあったのだ。

▼エンターテインメント

大正ロマンスポットとも言える浅草は、明治から大正にかけて、民衆娯楽がもつとも盛んだった地区だ。「浅草寺」や「仲見世」を筆頭に、見世物小屋や大道芸で賑わう「浅草公園」、日本最古の遊園地「花やしき」などが軒を連ねる様子は、娯楽の殿堂と言っても過言ではないだろう。また、日本初のエレベーターが設置された12階建ての「凌霄閣」も目玉の一つだった。

衝撃 !! 女学生の実態 !!

ここで言う「女学生」とは、12～17歳の少女を対象とした高等女学校生のことを指す。女学校は、一般教養から始まり、花嫁修業も兼ねた授業を学ぶ場であったが、その内容をひも解くと「え…そんなことまで…?」というようなことも多々見受けられる。

例えば、「家に泥棒が押し入った際の対処法」や「いい卵の見分け方は、眼球が生き生きとして肛門がよくひきしまった鶏が産んだものがよい」などがある。

卵の選び方に関しては、もはや生きのいい鶏の選び方である。

参考文献

- 『ビジュアル大正クロニクル』（世界文化社、2012年、所蔵：中央）
- 『大正ロマン手帖』（石川桂子／編、河出書房新社、2009年、所蔵：中央）
- 『記録を記憶に残したい大正時代』（山口謠司／編著、徳間書房、2017年、所蔵：東中野）
- 『今じゃありえない 100年前のビックリ教科書』（福田智弘／著、実業之日本社、2017年、所蔵：南台・鷺宮）
- 『国立国会図書館 写真の中の明治・大正』

http://www.ndl.go.jp/scenery_top

鬼について

今年度はコミックの影響もあり、「鬼」が話題となることも多々あった。鬼と聞いたら、どのような姿形が思い浮かぶだろうか。鬼から何が連想されるだろうか。角が生え、鋭い牙を持ち、虎柄の腰巻をして、金棒を持ったいかつい姿。怖い、恐ろしい、諸悪の根源、人ならぬ力を備えた存在。このようなイメージを抱く人も多いだろう。

鬼の姿形については諸説ある。鬼が住むのは鬼門、すなわち丑寅（北東）の方向であるため、牛と虎の特徴（角や牙）を持つという説が定説であろう。また、鬼といえば赤鬼や青鬼という印象が強い。



魔除け 厄除け お守り

科学技術が発展していない昔では、災害や疫病などの禍が起きた時、その原因を神や鬼などの超自然的なものに力によるものと考えた。人々は、この神仏や鬼、悪霊などに畏怖の念をもって暮らしていた。禍が起きたときは、神を正しく祀ることなどで鎮めようとした。あるいは、幸福を求めて神に願いを託した。これらの行為は「おまじない」の一種だ。

人々はお守りや護符を身に付けたり、季節の行事や祭りを行ったりすることで、除災招福のおまじないを取り入れてきた。これらの風習は、科学によってさまざまな事象が明らかになった現代でも、暮ら

これは、地獄の業火に燃える炎からの連想や、火焰で体が焼けて青黒くなる様子から、赤と青が鬼の色の代表であると推察される。

一口に鬼といっても、その種類はさまざまだ。妖怪の一種、地獄の獄卒、鬼神として崇められるもの、あるいは心に棲まう鬼。また、古代日本では、朝廷に与しない勢力のことも鬼と呼んだり、漂着した異国人を鬼と見立てたりしていた記述も残っている。



鬼が出てくる創作

平安時代初期にはすでに鬼が登場する話があった。仏教説話集の『日本霊異記』には、鬼となった死霊を退治する話など、鬼におののく人々の説話がある。そのほか、『伊勢物語』や『今昔物語集』、『雨月物語』など、多くの話の中に鬼は現れる。また、物語だけではない。平安時代末期以降から、絵画のなかにも鬼は登場する。邪鬼を退治する神々を描いた『辟邪絵巻』、そのほか、『地獄草紙』『百鬼夜行絵巻』など、数々の鬼が描かれた。古代から現代に至るまで、鬼というモチーフは登場し続けている。畏怖もしくは親愛の感情と共に、鬼は語り継がれているのだろう。

しの中に溶け込んでいる。

しかしこのような魔除けや厄除けは、科学的に見れば根拠がないものがほとんどだろう。しかし、きつと良い方向に進むと期待することで、人の心を落ち着かせる効果があることは否定しきれない。

◆『小さな幸せがみつかる』

今も暮らしの中に息づく世界の50のおまじないが、イラストとともに収録されている。眺めるだけでも、楽しく幸せな気分になれるそうだ。



亀井英里／絵
パイインターナショナル
2019年 所蔵：南台

◆『鬼棲むところ』

『今昔物語』などの古典作品から、鬼にまつわる説話を著者流にアレンジした短編集。人の心も鬼も描いた不思議な話に引き込まれる。



朱川湊人／著
光文社 2020年
所蔵：中央・野方・東中野

◆『妖怪萬画 Vol.1』

鬼は怖くとも、日本の妖怪画は陽気で愛嬌がある。「百鬼夜行絵巻」など、15本の絵巻が収録されている。



青幻舎 2012年
所蔵：本町・南台

遊びの中の鬼

鬼になったことがない人は少ないだろう。鬼ごっこやかくれんぼ、だるまさんがころんだ……、さまざまな遊びの中にも鬼はいる。この鬼とは、強力な鬼神霊魂のひるまなさや、死霊に追われる恐怖感などを意味し、追う・追われる、逃げ

福を呼び込む ハンドメイド

◆『かわいい背守り刺繍』

「背守り」という子どもを守るおまじないをご存知だろうか。背守りは江戸時代頃からはじまった習慣で、わが子思う祈りの手仕事だ。背中に縫い目のない赤ちゃんの産着に、針と糸で魔除けとして「目」をつけるのだ。魂が背中から抜けないため、また、背後から忍び寄る魔物を祓うためのおまじないだ。

健康を祈る「麻の葉」、応援する親の思いを込めた「旗」などの伝承柄から、ステゴサウルスのような子どもが好きな模様まで、75の図案と縫い方が紹介されている。日本ならではの風習ではあるが、和服だけでなく、洋服や小物とも相性が良い。



堀川波／著
誠文堂新光社 2019年
所蔵：本町

◆『フェルトで作る世界の お守りチャーム』

縁起が良いモチーフは、世界中にある。たとえば、モロッコでは、手のひらに目がついたデザインの「ファティマの手」というものがある。目の睨みで災いを防

る・捕らえるという遊びの行動行為の内容を暗喩したものである。

「鬼遊び」は、昔から多くの地域で親しまれている。鬼ごっこ、色鬼、水鬼、高鬼など、多くのバリエーションがあり、これらの種類を厳密に数えようとすると、2000以上にもなるそうだ。

子どもたちはさまざまな遊びを通して創造力や社会性、体力を身につけていく。心身ともに成長するためにも、たまには鬼になるということも悪くない。

◆『にほんのあそびの教科書』

（にほんのあそび研究会／編、土屋書店 2013年、所蔵：上高田）
懐かしい遊びを「外あそび」「草花あそび」「室内あそび」に分けて紹介している。豆知識つきで、より遊びを楽しめる。

参考文献

- 🐾『鬼とものけの文化史』
（笹間良彦／著、遊子館、2005年、所蔵：本町・鷺宮）
- 🐾『日本「鬼」総覧』
（新人物往来社、1995年、所蔵：本町）
- 🐾『伝承遊び考3』
（加古里子／著、小峰書店、2008年、所蔵：中央・鷺宮）
- 🌟『疫病退散』
（島田裕巳／著、サイゾー、2020年、所蔵：中央）
- 🌟『日本のお守り』
（畑野栄三／監修、池田書店、2011年、所蔵：中央）
- 🌟『遺跡が語る、中世まじないビジネスの世界』
（間宮正光／著、土屋書店、2013年、所蔵：本町）



ささきみえこ／著
日本文芸社 2019年
所蔵：江古田

ぐ、呪いを追い払うと伝えられているそうだ。フェルトで暖かみのあるモチーフが可愛い一冊。



縁起を担いだり、おまじないをしたりすることは、戦国などの混乱した世の中でも盛んに行われていた。科学や医療の発展とともに解明された事柄が多い現代でも、最終的には「神頼み」することもあるだろう。気が落ち込むような時には、幸運を招くおまじないを取り入れてみるのもいいだろう。

また、多くの資料を広げ、世界にさまざまなおまじないや伝承を比較してみるのもきっと面白い。

中野区にあるお守り

新井薬師（梅照院）は、眼病の治療に効験があるとして、江戸時代から信仰されてきた。

目が疲れやすいなど、目のお悩みには、お守りとして「めめ馬」が効くかもしれない。この絵馬には、墨でくっきり左右対称の「め」という文字が書かれている。

鷺宮で路傍の石仏をめぐる

その昔、道しるべや庶民の信仰として、道端のあちこちに石仏がありました。都市化に伴い、今では消滅したり近隣のお寺に移されたりして、その姿を見ることは難しくなっています。鷺宮には、そのままの姿で道端にたたずむ石仏が、比較的多く残されています。石仏を巡って、古から続く庶民の生活と地域の歴史を感じてみてはいかがでしょうか。



①子連れ願掛け地蔵

上鷺宮 1-2-13

大きい地蔵は1715（正徳5）年造立、小さい地蔵は造立年不詳。

夜中に白装束で祈願しながら小さい方の地蔵を倒すと、大きい地蔵は、倒された小さい地蔵を起こしてもらいたいために願いごとをかなえるといわれ、願いごとがかなったら、自分が倒した小さい地蔵を起こしに行く、という信仰が伝えられています。



②つげの木地蔵

上鷺宮 2-10

1791（寛政3）年造立。昭和二十年頃までは、大きなつげの木が地蔵をおおっていたので「つげの木地蔵」と呼ばれています。台石は江戸時代の物ですが、地蔵本体は終戦間もない頃に盗まれて、その後見つかったり盗まれないまま。現在の像は1954（昭和29）年に再建されたものです。



③笠つき庚申塔

鷺宮 4-46-5

1697（元禄10）年造立。つげの木地蔵から、新青梅街道を渡ってほど近くにありま。この庚申塔が面している道は、新青梅街道の旧道です。



※この記事は鷺宮図書館が担当しました

④地蔵尊と庚申塔・子育て地蔵

鷺宮 5-12、5-11

笠つき庚申塔から南西に30メートル余り歩くと右手に、中ほどから上が破損し無くなっている地蔵尊（1738、元文3年造立）と、庚申塔、（1745、延享2年造立）があります。一緒に稲荷神社の狐像が一体だけ、ひっそりと置かれています。



⑤交通厄除け地蔵と境内の石仏

白鷺 2-48

交通厄除け地蔵は1937（昭和12）年に造立され、日本で最初に作られた交通厄除け地蔵です。境内には、この近在にあった石仏や道しるべなどが集められています。



⑥いぼとり地蔵

白鷺 1-16

造立年不詳。福蔵院墓地入口にあります。いぼやオデキができる、小石をそなえて祈願する風習があったと伝えられています。また福蔵院では、参道に地蔵尊や馬頭観音像、山門内には「十三仏」など、多くの石仏を見ることができます。（文献では「こぶとり地蔵」となっていますが、所有者の福蔵院より、正しくは「いぼとり地蔵」だと聞きしました。）



⑦五体の石仏

白鷺 2-35

隣に、馬頭観音（1766、明和3年）、庚申塔二体（1746、延享3年）、（1712、正徳2年）、地蔵尊（1753、宝暦3年）、聖観音（1919、大正8年）が安置されています。



参考：『路傍の石仏をたずねて』（中野区教育委員会／編・発行、1995年、所蔵：全館）

道を挟んだ向いにある地蔵尊は「子育て地蔵」と呼ばれています。造立は1759（宝暦9）年。施主に子どもが育たないのでこれを建てたといわれています。



デジタルアーカイブ 活用の勧め



中野区立図書館では、中野区が作成した地域資料や行政資料をデジタル化し「中野区立図書館デジタルアーカイブ」として公開しています。インターネットを通じて、「誰でも」「どこでも」地域資料等を見ることができます。

この特集で使用した『路傍の石仏をたずねて』をデジタルアーカイブで読んでみましょう。

■アクセス方法■

中野区立図書館ホームページを開き、左側のメニューにある

デジタルアーカイブ

をクリックします。

右上部にある検索窓に

路傍の石仏をたずねて

と入力し、検索実行。

※「コレクション一覧」→「その他」から選ぶこともできます。



「続きを読む」→「資料を読む」から、本文を閲覧できます。

鷺宮を知るならこの2冊！

『鷺宮文化村 - ふるさと鷺宮 - 』

（鷺宮区民活動センター運営委員会／編・発行、2016年、所蔵：全館）

『鷺宮の歴史をたどる』増補改訂版

（鷺宮の歴史をたどる会／編・発行、2014年、所蔵：全館）



鬼がでた！？
まぎ
の巻



「個性ある図書館」展示

個性ある図書館

生活に密着したテーマをもとに、各館で「個性ある(特色ある)図書」の展示を行っています。
より展示に親しんでいただけるよう、各回の展示ごとに
パスファインダー(情報を探するための手引書)をご用意しています。

	個性づくり 各館年間テーマ	2月27日～4月29日 第58回展示内容	4月30日～6月24日 第59回展示内容
中央	ワークライフ支援	ネットリテラシーって 大切ラシーよ！	図書館で読みとく テレワーク時代
本町	文化・芸能・芸術	芸術って素晴らしい！！	I LOVE BOOKS
野方	まちづくり・環境・エコロジー	地震に備える	都市と農業
南台	生活・福祉・介護	在職中の年金	動物のいる生活
鷺宮	子育て・教育	フリースクールとオルタナ ティブスクールとは？	知りたい！ “非認知能力”のこと
東中野	法務情報	働き方改革	借地借家法
江古田	健康・医療	ウイルス ～コロナ禍での生活～	アレレザー
上高田	趣味・スポーツ・生涯学習	アルコール ～その文化を知る～	おうちであそぼう

中野区連携展示

『子どもの権利』いくつか知っていますか？

「子どもの権利」をテーマとして、関連資料を展示します。

展示期間：令和3年3月27日(土)～5月27日(木)

展示場所：中央図書館 地下1階

- ・正面玄関前ガラスケース
- ・大型図書コーナー
- ・黒板展示コーナー

令和3年度 常設展示『日本の文豪』

文豪の肖像と共に、手稿の複製をはじめとする図書館資料を展示します。

第18回は広津柳浪、檀一雄、宇野千代の特集です。

展示期間：令和3年3月27日(土)～7月29日(木)

展示場所：中央図書館 地下1階

エレベーター前ガラスケース



次号予告

- ・図書館員が挑む
実践！ビブリオバトル
- ・地域開放型
学校図書館

vol.49 2021年5月末日 発行予定

※予告の内容は変更になる場合があります



広町みらい公園連携事業『読み聞かせの会』

乳幼児向けのおはなし会を実施します。新型コロナウイルス感染拡大状況によっては変更となる場合がございます。

日時：令和3年5月23日(日) (時間未定)

場所：広町みらい公園

対象や定員：乳幼児とその保護者 (定員未定)

問合せ：南台図書館 (03-3380-2661)

館長交代のお知らせ

4月1日付で、中央図書館長に鈴木正実(すずきまさみ)が着任いたします。
詳しくはシイビブリア Vol.50にて紹介いたします。

※ 本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。

ブックカバーとして ご利用いただけます		文庫本 ↓		文庫本 ↓		文庫本 ↓		ブックカバーとして ご利用いただけます	
単行本 → 文庫本 →								← 単行本 ← 文庫本	
中野区立中央図書館 中野区 中野 二丁目9番7号 TEL 03-5340-5070 中野区立本町図書館 中野区 本町 二丁目13番2号 TEL 03-3373-1666 中野区立野方図書館 中野区 野方 三丁目19番5号 TEL 03-3389-0214 中野区立南台図書館 中野区 南台 三丁目26番18号 TEL 03-3380-2661								中野区立鷺宮図書館 中野区 鷺宮 三丁目22番5号 TEL 03-3337-1044 中野区立東中野図書館 中野区 東中野 一丁目35番5号 TEL 03-3366-9581 中野区立江古田図書館 中野区 江古田 二丁目1番11号 TEL 03-3319-9301 中野区立上高田図書館 中野区 上高田 五丁目30番15号 TEL 03-3319-5411	
文庫本 → 単行本 →								← 文庫本 ← 単行本	
ブックカバーとして ご利用いただけます		単行本 ↑	文庫本 ↑	文庫本 ↑		単行本 ↑		ブックカバーとして ご利用いただけます	